

水村美苗(2008)『日本語が亡びるときー英語の世紀の中で』

- 幕末から明治期の日本近代文学を確立するまでの苦勞
- 英語公用語論などで英語の影響が強くなり、文学の力が落ちている。

金谷武洋(2010)『日本語は亡びない』

- 日本語教育は以前にもまして隆盛である。
- 現代の作家もなかなかの力を持っている。

言語接触からの考察

- 幕末および明治期の新しい文学を言語接触の現象の1種として分析できる。
- ピジンの現象であり、母語としての日本語はしっかりと保持されている。
- 現代の英語の影響は限定的であり、母語としての日本語が放棄される可能性はない。
- しかしグローバル化により外からの影響を受けやすくなっている。と同時にローカル性も重視される傾向もある。